

---

# あの世の夢

風間 淡然

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あの世の夢

### 【Nコード】

N2418M

### 【作者名】

風間 淡然

### 【あらすじ】

ある日見た夢の話です。

たまにこういったものを書くかも知れません。

気付けば私は死んでいた。

其処には私を含めた老若男女が6〜8名、いやもつと少ないかも知れない。が居た。

彼らは一様に明るかった。そんな彼らも死んでいた。

そのなかの、一人の初老の男性が三角ベースをしたいと云いだした。

みんな「やろっ、やろっ」と乗り気である。

どうやら此処は狭間に位置するらしく、彼はもうすぐ先の世界へ行くらしい。

その前に、思い残したことをしたい。そういうことのようにだ。

みんな真剣に、そして心から三角ベースを楽しんでいた。

地面は一面、大きな緑の葉に覆われ、紫色の細い茎が、踏みならされた葉の陰からみえる。

土と草の交わる匂いが心地良い。

此の場所には見覚えがある。

小学生の頃の通学路である、坂道に似ている。

以前も何度か夢で見た。面白いもので、夢の中には幾種類かの見覚えのある世界がある。

今回の場所は、そのなかの一つのようだ。

一通りゲームをし、彼は満足したようだ。

「では、いつてきます」という笑顔の彼は、先の世界へと通じる窓の向こうにいた。

皆が一人ずつ、彼に言葉をかけていく。彼は笑顔で頷いていた。

私の番になった。

「神の恵みが、ありますように」

というようなことを云った。

彼も同じ言葉を返してくれた。

その言葉は、ただのオウム返しではなく、神への信仰と確信が充溢していた。

「わかっているよ、ありがとう」彼の笑顔はそう語っていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2418m/>

---

あの世の夢

2011年1月8日22時49分発行